

## 令和8年度第1回我孫子市子ども・子育て会議 会議概要

1. 開催日時 令和8年5月30日(土)9:30~11:30

2. 開催場所 分館大会議室

3. 出席者

委員 菅井会長、奥村副会長、後藤委員、山本委員、土山委員、鈴木委員、  
布施委員、大森委員、海老澤委員、熊本委員、大滝委員 以上11名  
(欠席:森委員、大野委員 以上2名)

市職員 山崎子ども部長、石山保育課長、松本子ども相談課長補佐、  
三澤こども発達センター所長

事務局 高橋子ども支援課長、小野子ども支援課長補佐、渡邊係長、松永、高須

4. 議題

(1) 会長、副会長の選出

(2) 子ども・子育て会議について

(3) 令和7年度 実績報告

(4) 令和8年度 注視事業の選定

(5) 放課後対策事業運営委員会の委員の推薦について

5. その他

保育提供体制確保のための実施計画作成に係る意見聴取について

第2回 子ども・子育て会議の日程について

6. 配布資料

資料1 我孫子市子ども・子育て会議委員名簿

資料2 傍聴要領

資料3 我孫子市子ども・子育て会議条例

資料4-1 子ども・子育て支援事業 令和7年度 実績報告

資料4-2 こども総合計画 重点事業(次世代育成支援対策推進法に基づく事業)  
令和7年度 実績報告

資料4-3 子ども・子育て支援事業 評価別事業名一覧【令和7年度】

資料4-4 こども総合計画 重点事業 評価別事業名一覧【令和7年度】

資料5 我孫子市放課後対策事業運営委員会の委員の推薦について(依頼)

参考資料 令和8年度版子ども部の概要

## 7.議事要旨

(会長の選出までは子ども支援課長が議事進行を務める)

### 【事務局(高橋子ども支援課長)】

資料の確認、委員の自己紹介、職員の自己紹介を行い、出席者11名により会議の成立を報告した。議事概要作成のための録音について了承を得た。また、傍聴人1名を報告した。

### 【山崎子ども部長】

— 山崎子ども部長挨拶 —

### 【事務局(高橋子ども支援課長)】

— 議題①会長・副会長の選出 —

立候補・推薦がなかったため、事務局案として、会長に菅井委員、副会長に奥村委員を挙げ、選出された。

菅井会長、奥村副会長より就任の挨拶があり、以降の議事進行は菅井会長が務める。

### 【事務局(小野課長補佐)】

— 議題②「子ども・子育て会議条例について」説明 —

質疑・回答なし

### 【事務局(渡邊係長)】

— 議題③「令和7年度 実績報告」説明 —

質疑・回答なし

### 【事務局(松永)】

— 議題④「令和8年度 注視事業の選定」説明 —

### 【菅井会長】

それでは、皆さまからどの事業を注視していきたいかご意見をいただきたいと思います。

### 【山本委員】

「86. 専門職員による調整・相談・療育等」です。障がいがあると思って産むお母さんは圧倒的に少なく、ある日いきなり障がい児の母になり、そこから療育が始まります。苦しい

ときに相談できる場があり、寄り添っていただける方がいるのはすごく力になると実感しており、注視していただければと思います。

#### 【土山委員】

「12. 学校給食費補助事業」です。今年度から小学校で給食費が出ますが、それに伴い、学校では予算の面など事務的な負担があると思うので、注視していけたらと思います。いずれ、中学校の給食費にも補助が出るのでしょうか。

#### 【山崎子ども部長】

今は小学校からということでは国からの支援があります。中学校については、小学校の状況を見ながら、国の方針や市の財政状況もふまえ、検討していく流れになると思います。

#### 【土山委員】

「28. 歯みがき食育指導」にも関心をもっています。現在3校でフッ素洗口を実施していますが、成果がどの程度出てきているのか、実施率、虫歯にならない率はどのくらいあがっているのか、今後どのような形で進めていくのか、現状学校はどのように取り組んでいて、教育課程に影響がないのかなどをお伺いして、注視していきたいと考えています。

#### 【大滝委員】

4点あります。まず、「9-13. 放課後児童健全育成事業」です。放課後の子どもの居場所づくりに関心があります。共働き世帯が増えているなかで、放課後の居場所は単なる子どもを預かる場所ではなく、子どもが親以外の大人と関わり影響を受ける、成長にとって大切な場所として、重要性が高まっていくと考えています。

2つめは、「38. 小中学校コンピュータ教育の推進」です。学校教育のなかで、単にパソコンを使えるようにするというのではなく、うまく活用できるようにすることが重要だと感じています。

3つめが、「45. いじめ防止対策事業」です。令和7年度の実績が、100%ではなかったということに注目しております。子どもが安心して、学校で学び、友達と遊ぶために直結する重要な指標であると考えているため、未達部分の背景と課題に関心を持ちました。また、SNS が普及していくなかで、いじめも複雑化しているように感じます。このことから、注視していきたいと考えています。

4つめは、「75. 我孫子市防犯協議会の活動支援」です。子どもたちが安心して生活できる地域環境が重要であると考えています。「高齢化による地域防犯活動の担い手不足」が課題として挙げられていることが気になりました。

**【後藤委員】**

「44. 子ども虐待防止・援助活動の推進」です。民生委員として、虐待、不登校、障がい、という相談を受けることが多いです。テーマとして、支援が必要なお子さんに対する手厚い援助と、それとは別に、これからの世の中を生きていくお子さんに対し、ICT 活用や学校給食費補助事業などを両立していけるとよいのではないかと思います。

**【布施委員】**

子どもが楽しく過ごすためには、保護者からの意見も重要ではないかと考えています。保護者の笑顔は子どもの笑顔につながりますので、保護者への支援を注視していきたいです。また、保育園には、療育的な関わりを必要とするお子さんがいる保護者の方も多くいらっしゃいます。保育園としては、保育士不足もあり、先生たちも困っているという実態があります。そこで、「85. 療育・教育システムの構築」を注視するのが良いと思います。保育園、幼稚園、小学校、中学校などのつながりが構築できれば、子どもたちにとってもよいと考えています。

**【菅井会長】**

保護者の方への支援という視点で、具体的な事業を挙げていただくことはできますか。

**【布施委員】**

「67. 子ども総合相談の推進」です。ヤングケアラーなど、子どもからの相談がメインになるのかなと思いますが、保護者はどこまで受け付けてもらうことができるのでしょうか。また、「40. 教育・発達相談事業」も、保護者への支援になると思います。

**【松本子ども相談課長補佐】**

子ども総合相談では、ヤングケアラーの支援を掲げていますが、保護者からの相談も受け付けています。

### 【鈴木委員】

布施委員と同じく、実際に子育てをしている保護者の意見が大事だと考えています。「9-5.産後ケア事業」について、令和7年度実績から、需要が高いことがわかります。窓口があって、そこに問い合わせをすればすぐに答えていただける体制はありがたいですが、電話をしたり、LINEをしたりというアクションを起こすためには少しエネルギーが必要です。産後ケア事業では、赤ちゃんを預かっていただいている間に、助産師さんと話をしながら心安らぐ時間を過ごすことで、ゆとりをもって子育てができるという、自然な流れが受け入れられているのではないかと考えています。現状は12施設が実施していますが、今後どうなるのか、どうする必要があるのかというところを注視したいです。

### 【熊本委員】

私は「40.教育・相談発達事業」「85.療育・教育システムの構築」「87.就学に関する相談・支援業務」の3つを挙げさせていただきます。こども発達センターの先生方には、手厚くサポートをしていただくことができますが、就学して1年生になると、サポートが途切れてしまう現状があります。支援級の先生がメインで見ることになりますが、先生方はとても忙しく、合理的配慮について相談をしたいと思ってもできません。また、発達がゆっくりな子どもには、二次障がいと呼ばれるものがあり、学校に適應できず不登校になってしまう場合があります。先生たちの人数が少ないために、理科の実験や社会の授業となると、普通級に戻されてしまうという実情があります。無理があるなか普通級に戻されてしまい、その日は学校をお休みしているという話を聞きます。小学校に入ってから、もう少し相談を聞いてくれる窓口、サポートが欲しいと考えています。

### 【海老澤委員】

私は、令和7年度実績の評価が「ほぼ順調」であるということを根拠に、注視事業を選びました。「37.小中一貫教育の推進」「70.地域学校協働活動の推進」「88.児童発達支援事業所『ひまわり園』による発達支援」の3つです。様々な観点から考えたときに、どの事業も大事になると考えていますが、すべての事業を注視することはできません。そのなかで、令和7年度実績と令和11年度実績の目標を比較して、伸びしろがあると考えられる3つを選ばせていただきました。

### 【菅井会長】

皆さんの意見も伺いながら、子どもの長期的な育ちや発達という観点から、「37.小中一貫教育の推進」に注視したいと思っています。我孫子市では、小学校から中学校の9

年間をつなぐ小中一貫教育を行っていますが、なかなか周知されないという課題があがっていたかと思います。具体的にどのような教育を推進し、どのような課題があり、どういったことが途切れずにつながっているのかということが広まっていくといいと思います。もう一点、保護者への支援という観点で、妊娠期からのサポートが大切だと感じます。令和7年度実績の評価が「ほぼ順調」となっていた、「9-3. 妊婦健康診査事業」「9-4. 乳児家庭全戸訪問事業」です。初めての出産や子育てのはじまりの部分で、自分だけで向き合うのではなく、専門家の方と出会う機会が重要ではないかと考えています。子どもの育ちと保護者、両者への注視ができるとういと思いました。

#### 【奥村副会長】

妊娠期からの伴走型支援が全国的に重視されていることもあり、「9-3. 妊婦健康診査事業」「9-4. 乳児家庭全戸訪問事業」を注視したいと思っています。実績としては、ある程度効果がみられている一方で、94%と97%という数値になっているので、把握できていない世帯の対応や、継続支援の接続状況について見ていけたらと思います。また、相談に来られない家庭へのアウトリーチ型支援が注目されていると思います。「9-6. 養育支援訪問事業」「9-7. 子育て世帯訪問支援事業」について、計画では、「派遣世帯／対象世帯数」という指標をとっていますが、利用件数だけではなく、どんな家庭課題が多いのか、機関との連携はどうか、継続支援につながった割合はどのくらいなのかという、支援の質に着目していくことも大切だと感じています。

#### 【菅井会長】

それでは、ここから注視事業を選定します。

(事務局から、5つの基本目標ごとに1~2事業程度選ぶことを提案した。)

#### 【後藤委員】

基本目標2について、「28. 歯みがき食育指導」が提案されていますが、「18. 幼児健康診査」は達成率が100%に達していないということ、健康診査に来なかったことで虐待などの問題がわかるということもありますので、注視してもよいのではないかと思います。

#### 【菅井会長】

それでは、基本目標ごとに、皆さんの意見と、実績の評価をもとに選んでいこうと思います。まず、基本目標1に関して、皆さんに挙げていただいた事業の中で、実績の評価が「ほ

ば順調」となっている、「9-13. 放課後児童健全育成事業」と、「9-3. 妊婦健康診査事業」「9-4. 乳児家庭全戸訪問事業」を注視するのが、現実的な課題への対応ではないかと思います。「9-13. 放課後児童健全育成事業」については、皆さんから多くの意見をいただいていますので、決定してよいと考えます。「9-3. 妊婦健康診査事業」「9-4. 乳児家庭全戸訪問事業」について、市の実情はいかがでしょうか。

#### 【事務局（渡邊係長）】

今挙げていただいた2つの事業は、健康づくり支援課所管の事業です。皆さまのご意見を健康づくり支援課にお伝えし、所管課の見解も踏まえ、どちらかに決定するということがよろしいでしょうか。

#### 【菅井会長】

お願いいたします。それでは、基本目標2にうつります。基本目標3と5で多くの事業があがっていることを踏まえ、基本目標2では1つを選ぶということではいかがでしょうか。挙げていただいている事業のなかから、評価が「ほぼ順調」となっている、「28. 歯みがき食育指導」を注視するということがよろしいでしょうか。

続きまして、基本目標3で挙げていただいている事業のなかでは、「37. 小中一貫教育の推進」「38. 小中学校コンピュータ教育の推進」「45. いじめ防止対策事業」が「ほぼ順調」となっていますが、こちらでよろしいでしょうか。もしくは、「順調」のなかでもこれはというものがあれば、ご意見いただけますでしょうか。

#### 【熊本委員】

「44. 子ども虐待防止・援助活動の推進」は、「順調」となっていますが、支援が引き続き必要であることから、注視したいと考えております。それから、「38. コンピュータ教育の推進」と「45. いじめ防止対策事業」は現在とても関連が深いものだと思います。技術的な教育だけではなく、情報モラルの教育を徹底していくことで、ある程度いじめ防止につながっていくと思います。

#### 【土山委員】

コンピュータ教育というのは範囲が広く、この事業はどちらかという、コンピュータを利用した教育の推進ということになると思います。そのため、情報モラルという観点では、「45. いじめ防止対策事業」に重点が置かれるべきだと考えています。SNS の問題に子ども

が巻き込まれている現状があるので、それに対して大人がどういう形で支援していくことができるのかというところを注視したいと考えています。

【大森委員】

「38. コンピュータ教育の推進」ですが、小学生はタブレットを持ち帰ることがあり、自宅での使い方が心配です。学習に使用するという大前提があったとしても、実際には違う使い方をしたり、時間が守れなかったりという問題があります。声をかけても聞かないこともあるなかで、保護者の困り感も強いのではないかと思います。夜遅くまで使用して、朝が起きられないという流れにもつながっていくと思うので、注視したいと思います。

【奥村副会長】

「38. コンピュータ教育の推進」について、事業内容が「ICT 機器やインターネット回線等の整備を図り」となっているので、モラルの部分で対応いただけるのか懸念があります。

【後藤委員】

「38. コンピュータ教育の推進」について、事業内容に「情報モラルの授業を実施します」ともあるので、情報モラルを教えることが、いじめ対策につながると考えて、こちらの事業を注視するのが良いのではないかと思います。

【菅井会長】

「38. コンピュータ教育の推進」の事業内容を読むと、ICT 機器の不具合への対応という面が強いように読めてしまいますが、そこに情報モラル教育というところも含めて、いじめ対策として注視していくのか。それとも、「45. いじめ防止対策事業」のなかに情報モラル教育を含んで注視していくのか。どちらがよろしいでしょうか。

【後藤委員】

「45. いじめ防止対策事業」のなかに、情報モラルについてもっと教育する、保護者への対応、ということを含めるのも良いと思います。

【大滝委員】

「38. コンピュータ教育の推進」については、私が提案させていただきましたが、後藤委員のおっしゃるように、「45. いじめ防止対策事業」のなかに情報モラルやメディアリテラシーの教育を含むという形で注視していくのが良いと思います。

【菅井会長】

では、大滝委員、後藤委員のご意見も含めまして、基本目標3につきましては、「44. 子ども虐待防止・援助活動の推進」「45. いじめ防止対策事業」「70. 地域学校協働活動の推進」ということで決定してよろしいでしょうか。

それでは、次の目標にうつります。

(基本目標5の事業名が多数挙げられているため、事務局から、注視事業は1~2事業に限定せず選定することを提案した。)

【菅井会長】

それでは、基本目標5についてご意見いかがでしょうか。

【土山委員】

「86. 専門職員による調整・相談・療育等」に関して、所管課がこども発達センターになっていますが、教育相談センターは関わっていないのでしょうか。こども発達センターは就学前のお子さんの対応で、就学後は教育相談センターと認識しているため、疑問に思いました。

【三澤こども発達センター所長】

「86. 専門職員による調整・相談・療育等」については、こども発達センターの相談件数のみの指標になります。おっしゃるとおり、教育相談センターにも心理相談員やケースワーカーがおりますが、こちらの事業に関しては教育相談センターの件数は含まれておりません。また、こども発達センターは就学前のお子さんを対象にしております。小学1年生のお子さんに関しては、就学支援ということで、学校での様子について伺う連絡をしております。

【奥村副会長】

今4つ事業が挙げられていますので、すべてを絞らずに注視するという案もあると思います。もしくは、外すことができないのは「85. 療育・教育システムの構築」であると考えています。今挙げられている事業をすべてカバーすることができる事業ではないかと思えます。

【菅井会長】

今ご意見を頂きましたとおり、全体的な事業として、「85.療育・教育システムの構築」は決定でよろしいでしょうか。

他の3つに関してご意見いかがでしょうか。

【三澤こども発達センター所長】

「85.療育・教育システムの構築」に係る事業が86以降に掲載されていますので、「85.療育・教育システムの構築」を注視するなかで、「86.専門職員による調整・相談・療育等」「87.就学に関する相談・支援業務」「88.児童発達支援事業所『ひまわり園』による発達支援」をさらに具体的に見ていくことができると思います。

【菅井会長】

それでは、基本目標1は、「9-3.妊婦健康診査事業」、「9-4.乳児家庭全戸訪問事業」から1つと、「9-13.放課後児童健全育成事業」。基本目標2は、「28.歯みがき食育指導」。基本目標3は、「37.小中一貫教育の推進」「44.子ども虐待防止・援助活動の推進」「45.いじめ防止対策事業」。基本目標4は、「70.地域学校協働活動の推進」のみ提案されていますので、決定いたします。基本目標5は、「85.療育・教育システムの構築」ということでよろしいでしょうか。それでは、後日事務局より注視事業についての意見等を求められますので、回答をお願いいたします。

【事務局（高須）】

— 議題⑤「放課後対策事業運営委員の委員推薦について」説明 —  
大滝委員より立候補があり、推薦されることが決定した。

【石山保育課長】

— その他 —

・「保育提供体制確保のための実施計画作成に係る意見聴取について」説明  
・保育提供体制確保のための実施計画作成においては、地方版子ども・子育て会議に意見を聴取することを必要としている。

【菅井会長】

何かご質問などはありますか。

### 【山本委員】

財政支援項目について、一時預かり支援が入っていませんが、以前は3歳より下のお子さんの預かり先が少ないという課題がありました。現在は解消されているのでしょうか。

### 【石山保育課長】

今年度から、一時預かりとは別に「こども誰でも通園制度」が始まり、同じような機能を持っています。保護者が就学、就労をしていない、保育園・幼稚園等に所属していない0歳～3歳未満のお子さんが利用できるものです。そちらも活用していただければと考えております。また、ここ数年、一時預かりの利用者数が減ってきています。幼稚園でもプレ保育が利用できることや、子育て支援施設を利用される方もいらっしゃいます。また、共働きて就労される方が増えているので、1歳児くらいから保育園を利用される方が増え、一時預かり自体は減っているという状況になります。

### 【菅井会長】

入園した数を見ると、0歳児が増えています。施設の増設は行わないのでしょうか。低年齢保育のニーズが高まるなかで、低年齢児と幼児では必要な環境が違いますが、年齢に応じた保育ということについて、市ではどのように考えていますでしょうか。財政支援の項目に「A.就学前教育・保育施設整備交付金」や「B.保育所等改修費等支援事業」がありますが、質的な支援については含まれないということでしょうか。

### 【石山保育課長】

当市の待機児童対策としては、定員の弾力化を進めており、それにより、施設を増やすことなく保育を補うことができています。しかしながら、保育士不足は全国的な課題となっており、我孫子市でも同じ状況です。通常の定員を受け入れる保育士の数は確保できていますが、弾力化したときの保育士が足りないという課題があります。当市では引き続き弾力化を進めていく予定で、施設の増設は予定しておりません。また、こちらの計画については、ソフト面ではなく、ハード面での財政支援となっています。

### 【事務局（高須）】

— その他 —

・第2回子ども・子育て会議の日程について

第2回子ども・子育て会議の日程は2月20日（土）または21日（日）午前中を予定しており、年末頃を目途に出欠を再度確認し、委員の出席が多い日程で決定します。

・来年度子ども・子育て会議の日程について

来年度は、第五次我孫子市子ども総合計画の中間見直しがあるため、会議を3回開催する予定です。具体的には、5月下旬、7月、2月を予定しています。今年度3月頃に日程調整のメールをお送りしますので、ご回答をお願いします。

【菅井会長】

それでは、本日予定していた議題はすべて終了しました。傍聴の方がいらっしゃいますので、発言があれば1人につき1回として、3分以内でお願いいたします。

(傍聴人1名発言あり)

【菅井会長】

これで、令和8年度第1回我孫子市子ども・子育て会議を閉会といたします。長時間にわたりおつかれさまでした。また次回もよろしくお願いいたします。

～ 終了 ～